富士道

モデルコース③
水音に織機の音が重なる：西桂（にしかつら）コース

優美な裾野を引く御山の姿を正面に、豊かな水音と織機の音が重なる

国道139号から一本南を走る道が古い富士道。西桂町小沼（おぬま）の旧道は「宿通」と呼ばれ、江戸時代から近代を通じて富士山に登る人々を受け入れる宿場としてにぎわいました。明治時代には、馬車鉄道の乗り換え所もありました。

小沼付近は、八の字の形をなして緩やかに裾を引く富士の御山の全体を、最初に目にする場所。江戸から歩いてきた富士講の人々も、次第に大きくなる富士の姿に思いを新たにしたことでしょう。

旧道沿いには今も現役の機屋（はたや）があり、道を歩いていると、時折、織機のカシャンカシャンという音が聞こえてきます。この旧道は、幕末から近代にかけて、横浜を中心とした糸や織物の商売が盛んになると、織物問屋の集落として発展しました。

町中には家の敷地の中まで用水路が張り巡らされ、豊富な水があふれんばかりに流れています。この水も織物生産には欠かせないものです。

コース概要

S G 三つ峠駅

距離：約3km　所要時間：約3時間

道路状況：基本的に舗装路

高低差：約30m（富士山に向かってやや登り）

その他関連情報

毎月第3土曜日に開催しているオープンファクトリーでは、高度な技術で織られた織物製品の購入、ワークショップ体験、工場見学等を実施している。対象となる工場は毎月異なるので、公式サイト（https://hatajirushi.jp/home）で必ず確認の上、事前に予約をすること。

町中に張り巡らされた水路

西桂町内には網の目のように水路が張り巡らされています。この地域は、町や田畑よりかなり低い場所を桂川が流れており、農業用水や生活用水を確保するために、上流に堰を設けて水路を築く必要がありました。この豊かな水で水車を動かし、織機の動力源にも使われました。

食行身禄（じきぎょうみろく）の碑

富士講の行者の一人である食行身禄の没後150年忌を記念した碑。身禄は、当時の政治を批判し富士山中で入定、即身仏となりました。このことが富士講の大流行につながりました。小沼の旧道には富士山に登る人々を受け入れる宿が並び、「宿通」と呼ばれていました。

富士見橋

桂川に架かる富士見橋からは、富士山の湧水が流れる桂川越しに堂々たる富士山が望めます。江戸から富士山を目指して歩いてきた富士講信者たちにとって、この辺りは、八の字の形に裾を引く富士山の山容を初めて目にする場所でもありました。

富士登山道標

「右方富士登山道」と刻まれた石碑。江戸時代の富士道は、この場所で左手に進み明見地区へと出ていました。明治になると道筋が次第に変わり、右手に進み山裾に沿って下吉田地区へと出る道ができました。この石碑はその頃のものと考えられます。

ひとあし伸ばして

ひとあし伸ばすと、空胎上人が仏教信仰を復興した「三ツ峠山」、知る人ぞ知る西桂町の名瀑「天（てん）の滝（たき）」などもあります。

小沼浅間神社（おぬませんげん）

鳥居をくぐるとすぐに参道の左側に、きれいな水が湧く池があります。三ッ峠山中興の祖「空胎上人」の水修行の場と伝えられ、富士山に向かう多くの富士講信者もここで水行を行いました。神社の隣には西桂町内唯一の染色工場があります。

一乗寺

境内の地蔵堂に祀られている「三本松のお地蔵様」は、かつて小沼村の外れに安置されていました。その場所は富士山の遥拝所としてにぎわっていましたが、富士山の噴火により溶岩で覆われてしまい、原野を惜しんだ一乗寺の住職が1689（元禄2）年に開墾、地蔵堂を建立したとされています。